

三菱マテリアル(株)

東京都千代田区丸の内三丁目2番3号
 〒100-0005 ☎03-5252-5200
 URL: <https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/>
【設立】 1950年(創業1871年)
【資本金】 119,457百万円
【代表者】 執行役社長 小野直樹
【大株主】 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)
【従業員】 連結18,323人(2024年3月末時点)



●事業所(製造拠点)

- ★はリサイクル原料使用製品
- ◇直島製錬所(香川県香川郡直島町)
銅アノード、★電気銅、粗硫酸ニッケル、★金地金、★銀地金、セレン、銅スラグ、硫酸、石膏
- ◇生野事業所(兵庫県朝来市)
★電気錫
- ◇堺工場(大阪府堺市)
型銅品(ケーキ、ビレット)および銅荒引線
- ◇細倉金属鉱業(宮城県栗原市)
★電気鉛
- ◇若松製作所(福島県会津若松市)
銅および銅合金の条、異形条製品
- ◇三宝製作所(大阪府堺市)
銅および銅合金の条、板、棒・線製品
- ◇三田工場(兵庫県三田市)
精密実装材料(金錫合金ペースト、低 α (アルファ)線はんだ材)、シリコン精密加工品



直島製錬所

- ◇セラミックス工場(埼玉県秩父郡)
サーミアブソーバ、サーミスタセンサ、チップサーミスタ
- ◇筑波製作所(茨城県常総市)
インサート、★超硬素材
- ◇岐阜製作所(岐阜県安八郡)
ドリル、カッター、バイトホルダー、★刃先交換式インサート
- ◇明石製作所(兵庫県明石市)
ハイスドリル、ソリッドエンドミル、ブローチ
- 研究開発拠点
◇イノベーションセンター(茨城県那珂市)
- ◇中部エコテクノロジー(株)
- ◇東日本リサイクルシステムズ(株)
- ◇細倉金属鉱業(株)
- ◇マテリアルエコリファイン(株)
- ◇三宝メタル販売(株)
- ◇三菱電線工業(株)
- ◇三菱マテリアル電子化成(株)
- ◇日本新金属(株)
- ◇(株)MOLDINO
- ◇八幡平グリーンエナジー(株)
- ◇三菱マテリアルテクノ(株)
- ◇三菱マテリアルトレーディング(株)

●営業拠点

- ◇本社(東京都千代田区)

●国内グループ会社

- ◇小名浜製錬(株)

●海外主要グループ会社

- ◇三菱マテリアルヨーロッパ社
- ◇MMCツールズ・タイランド社
- ◇スペイン三菱マテリアル社
- ◇ルバタ・ポリ社

資源循環拠点

■直島製錬所

香川県香川郡直島町4049番地1
 〒761-3110 ☎087-892-2111

- ・主要設備
三菱連続製銅法S炉・CL炉・C炉、有価金属リサイクル施設(キルン熔融炉)
- ・受入原料
銅系スクラップ、黄銅系スクラップ、めっきスラッジ、Eスクラップ

きスラッジ、Eスクラップ

■生野事業所

兵庫県朝来市生野町口銀谷985-1
 〒679-3301 ☎079-679-3111

- ・主要設備
ロータリーキルン、電気炉
- ・受入原料
錫スクラップ(半田屑、めっきスラッジ等)

■小名浜製錬所

福島県いわき市小名浜字渚1-1
 〒971-8101 ☎0246-54-5333

- ・主要設備
三菱連続製銅法S炉、反射炉、転炉
- ・受入原料
シュレッターダスト、廃プラ、鉱さい(鋳物砂、脱硫スラグ)、廃油、金属くず、排水処理汚泥、もえがら、はいじん、銅系スクラップ、黄銅系スクラップ、めっ

■日本新金属(株)

大阪府豊中市千成町1-6-64
 〒561-0829 ☎06-6333-1171

- ・主要設備
オートクレーブ、イオン交換カラム、エボパレーター、還元炉、炭化炉
- ・受入原料
使用済み超硬工具、工場内回収品、原料配合時に失敗したもの、製品化工事に発生するもの、など

沿革

1871年	九十九商会(三菱商会の前身)が紀州新宮藩の炭鉱を租借し、鉱業部門に進出。	セメント(株)の3社が合併し、三菱鉱業セメント(株)が発足。三菱金属鉱業(株)を三菱金属(株)に商号変更。	
1873年	三菱商会(三菱合資会社の前身)が吉岡鉱山を買収、金属鉱山事業に進出。	1976年	セラミックス電子部品の製造販売を開始。
1893年	三菱合資会社を設立。	1988年	米国三菱セメント社設立。海外セメント事業に進出。
1896年	宮内省より大阪製煉所の払い下げを受け、金属製錬事業に進出。	1990年	三菱金属(株)と三菱鉱業セメント(株)が合併し、「三菱マテリアル(株)」として発足(12月1日)。
1917年	鉱業研究所(現中央研究所)設置。直島製錬所設置。	1991年	東北開発(株)と合併。
1918年	三菱鉱業(株)設立。三菱合資会社より炭鉱部、鉱山部、研究所を継承。	1996年	インドネシア・カパー・スメルティング社設立。インドネシアにおける銅製錬事業に進出。
1920年	荏田工場(現九州工場 当時豊国セメント(株))設置。セメント生産を開始。	1998年	宇部興産(株)と共同で宇部三菱セメント(株)設立。
1921年	三菱鉱業(株)が東京株式取引所に株式上場。	1999年	家電製品リサイクル事業に進出
1942年	東京金属工業所(現筑波製作所に事業継承)を設置し、切削工具事業に本格進出。	2000年	神鋼コベルコツール(株)(現明石製作所)買収。工具事業を強化。
1944年	新潟金属工業所(現株ダイヤメット)で、粉末冶金製品の量産開始	2001年	岡山工場(現ユニバーサル製缶(株)岡山工場)でアルミボトル缶の製造を開始。
1950年	集中排除法により、石炭(三菱鉱業(株)、金属(太平鉱業(株))両部門が分離。	2002年	住友金属工業(株)(現日本製鉄(株))とシリコンウェーハ事業統合会社、三菱住友シリコン(株)(現株SUMCO)設立。
1950年	太平鉱業(株)が東京証券取引所に上場。	2004年	(株)神戸製鋼所との銅管事業統合会社、(株)コベルコマテリアル銅管設立。
1952年	太平鉱業(株)が三菱金属鉱業(株)に商号変更。	2005年	北海製罐(株)(現ホッカホールディングス(株))と飲料用アルミ缶事業統合会社、ユニバーサル製缶(株)設立。
1954年	三菱セメント(株)設立。セメント事業に進出。	2007年	三菱マテリアルポリシリコン(株)を吸収合併し四日市工場を設置。三菱マテリアル神戸ツールズ(株)を吸収合併し明石製作所を設置。
1959年	日本電子金属(株)を設立。半導体用高純度シリコン事業に進出。	2008年	三菱伸銅(株)を連結子会社化。
1962年	三菱レイノルズアルミニウム(株)(現三菱アルミニウム(株))設立。	2010年	三菱電線工業(株)を連結子会社化。
1971年	原子燃料製造を目的とする三菱原子燃料(株)を設立。	2012年	MCCデベロップメント社がロバートソン・レディ・ミックス社を完全子会社化。
1972年	富士小山工場(現ユニバーサル製缶(株)富士山工場)設置。飲料用アルミ缶事業に進出。		
1973年	三菱鉱業(株)、三菱セメント(株)、豊国		

2015年	日立ツール(株)を連結子会社化し、三菱日立ツール(株)(現株MOLDINO)に商号変更。
2017年	ルバタ社より銅加工品の製造及び販売を行うSpecial Products事業部門を取得。
2019年	指名委員会等設置会社へ移行。
2020年	三菱伸銅(株)を吸収合併し、若松製作所及び三宝製作所を設置。三菱日立ツール(株)を完全子会社化、株MOLDINOに商号変更。
2021年	マントベルデ社を持分法適用関連会社化。
2022年	保有するユニバーサル製缶(株)の全株

式を譲渡。吸収分割により、三菱アルミニウム(株)のアルミ圧延・押出事業を昭和アルミニウム缶(株)(現アルテミラ(株))に承継。
 吸収分割により、セメント事業及びその関連事業等をUBE三菱セメント(株)に承継。
 2023年 (株)マテリアルファイナンスを吸収合併。
 小名浜製錬(株)を完全子会社化。
 吸収分割により多結晶シリコン事業を高純度シリコン(株)に承継し、同社の全株式を譲渡。



Eスクラップ

サステナブル経営

「人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する」ことを私たちの目指す姿と定め、目指す姿の実現に向け、資源循環の拡大、高機能素材・製品供給の強化に取り組んでいます。

現在、世界一となる16万トン/年のE-Scrap処理量を誇りますが、2030年度には24万トン/年とすることを目標に掲げています。また、非鉄金属製品にお

けるリサイクル材料の含有率を明示した、リサイクル金属ブランド「REMINE」を立ち上げ、対象となる金属の拡充に取り組んでいます。

2050年度に当社消費電力に匹敵する再生可能エネルギー発電量を実現して、実質的な再エネ電力自給率100%に向け、地熱発電の拡大や風力発電への新規参入など、再生可能エネルギー事業の拡大を推進しています。

日本重化学工業(株)

東京都中央区日本橋茅場町二丁目12番10号
PMO EX 日本橋茅場町11階 〒103-0025 ☎03-6704-4720
URL: <https://www.jmc.co.jp/>



【設立】1917年
【資本金】1億円
【代表者】代表取締役社長 角掛繁
【大株主】従業員持株会
【従業員】連結1,027人(2024年3月末日)

●事業所(製造拠点)

- ★はリサイクル原料使用製品
- ◇高岡事業所(富山県高岡市吉久)
水素吸蔵合金、特殊合金鉄、★鋳鋼品
- ◇山形事業所小国工場(山形県西置賜郡小国町)
★水素吸蔵合金、シリコン系電池材料、
★金属クロム、高純度コバルト

- ◇山形事業所酒田工場(山形県酒田市大浜)
磁性材料、セラミックス、水素貯蔵システム

●研究開発拠点

- ◇商品開発センター(山形県西置賜郡小国町、
山形県酒田市大浜)
- ◇水素イノベーションセンター(山形県酒田
市大浜)



山形事業所小国工場全景

●営業拠点

- ◇本社
- ◇南岩手事務所(岩手県北上市和賀町)
- ◇大阪営業所(大阪府大阪市天王寺区上汐)
- ◇八幡営業所(福岡県北九州市小倉北区紺屋町)
- ◇伊達事務所(福島県伊達市柏木町)
- ◇香港事務所

- ◇日重環境(株)
- ◇日重建設(株)

●海外主要グループ会社

- (米州)
- ◇JMC (USA), INC. (アメリカ)
- ◇BOZEL BRASIL S.A. (ブラジル)
- ◇BOZEL NORTH AMERICA LLC (アメリカ)
- (欧州)
- ◇BOZEL EUROPE S.A.S. (フランス)

●国内グループ会社

- ◇地熱エンジニアリング(株)

資源循環拠点

■山形事業所小国工場

山形県西置賜郡小国町大字小国町232番地
〒999-1351 ☎0238-62-2470

- ・主要設備 焼成炉、解砕機、反応槽等、
- ・受入原料 電池材料系スクラップ

沿革

1917年 8月	富山県伏木町に北海電化工業(株)として設立	発電所である松川地熱発電所完成
1918年 4月	伏木工場完成、カーバイドおよび石灰窒素、硫酸の生産開始	1969年 1月 日本フェロアロイ(株)と合併(山形県の小国工場と酒田工場の事業を継承)、商号を日本重化学工業(株)に改称
1936年 9月	合金鉄の生産開始	1970年 4月 新日鐵八幡構内にクロム系合金鉄を生産する九州工場完成
1936年 9月	石灰窒素および硫酸の生産中止	1973年10月 高岡工業所(伏木工場)において合金鉄の生産中止
1945年 9月	能町工場(現日重建設(株)、現日重環境(株))完成	1975年 4月 東北重化学工業(株)を吸収合併し、和賀川工場(現南岩手事務所)、伊達工場(現伊達事務所)の事業を継承
1951年11月	商号を東化工(株)に改称	1978年 5月 岩手県雫石町に東北電力(株)と共同開発による葛根田地熱発電所完成
1954年 8月	珪カルおよびマンガン肥料の生産開始	1981年 2月 高岡工業所(庄川工場)に電解二酸化マンガン工場完成
1954年 8月	合金鉄の生産増強を図るためカーバイドの生産中止	1982年11月 北海道森町に北海道電力(株)と共
1955年 2月	総合微量元素みつかね肥料の生産開始	
1958年 3月	庄川工場(現高岡事業所)完成	
1961年 4月	鋳鋼品の生産開始	
1962年 8月	岩手県に花巻工場建設、腐植酸苦土肥料アヅミン生産開始	
1966年10月	岩手県松川地域に日本初の地熱	

同開発による森地熱発電所完成	2002～2003年	電解二酸化マンガンの生産中止
1987年9月 酒田事業所で合金鉄の生産中止	2006年6月	会社更生手続終結
1988年3月 酒田事業所にマンガン系フェライト工場完成	2008年3月	環境事業部を独立、日重環境(株)設立
1988年6月 酒田事業所でセラミックス成型品の生産開始	2011年2月	海外合金鉄メーカーのBOZEL BRASIL S.A. (ブラジル)とBOZEL EUROPE S.A.S. (フランス)を買収し、両社を完全子会社化
1998年7月 小国工場で金属クロムの生産開始	2012年3月	ニッケル水素電池からのレアアースリサイクル事業を開始
1992年3月 小国工場に水素吸蔵合金生産設備完成	2012年3月	高岡事業所で肥料(みつかね、珪カル)の生産中止
1993年8月 米国ノースカロライナ州にJMC(USA),Inc.設立、高純度金属クロムの生産開始	2013年10月	福島県伊達市に伊達ソーラー発電所完成
1994年8月 ブラジルにSilbasa社設立、高純度フェロシリコンの生産開始	2017年4月	松川地熱発電所の安定発電継続が評価され「第91回」渡辺賞を受賞
1995年3月 南岩手工場で合金鉄の生産中止	2017年4月	シリコン系電池材料量産開始
1996年3月 小国工場で合金鉄の生産中止	2017年8月	創業100周年
1997年11月 高岡事業所にリチウムマンガン生産設備完成	2019年1月	日重化発足50周年、松尾八幡平地熱発電所の運転開始
1998年2月 高岡事業所、九州工場の合金鉄生産停止	2023年10月	本社を現住所に移転
1998年6月 小国工場で高純度コバルトの生産開始	2023年11月	高岡事業所に水素吸蔵合金工場完成
1998年6月 南アフリカにAdvalloy社設立、マンガン系合金鉄の生産開始		
2002年2月 会社更生手続申立て		
2002～2003年 海外合金鉄、地熱、アヅミン花巻工場、リチウムマンガン等の事業を譲渡		



水素吸蔵合金塊

サステナブル経営

当社の水素吸蔵合金やシリコン系電池材料等の電池用原料は、家庭用二次電池、ハイブリッド車や電気自動車の電池、定置型の蓄電池などに幅広く使われる。これら電池用原料の製造だけでなく、電池リサイクルの技術の確立を通して、サステナブルな社会実現に貢献している。

当社の供給する合金鉄のうち高純度フェロシリコンは、省電力モーターやハイブリッド車向けモーター等に使われる。ブラジルの合弁会社では、100%水力発電の電気を使用し、また自社保有林のユーカリ由来の木炭を燃料として使用することで、生産活動における温室効果ガスの削減に取り組む。海外グループ会社のBOZEL BRASIL S.A.社で製造する合金鉄(カルシウムシリコ

ン、フェロシリコン)も、同様に水力発電の電気で作られる。当社の合金鉄は、日本を始めとする多くの鉄鋼メーカーのカーボンフットプリントの削減に貢献している。

当社は日本初の商業地熱発電所である松川地熱発電所(現在は東北自然エネルギー株式会社が所有)を1966年に建設したことで、日本の地熱開発のパイオニアとして知られる。その後も継続して地熱事業を展開、日本の地熱発電の発展に寄与している。2019年にも新たな地熱発電所である松尾八幡平地熱発電所が運転を開始。その他にもいくつかの地熱開発プロジェクトに携わっている。2013年には福島県伊達市にソーラー発電所を建設し、地熱以外の再生可能エネルギー事業にも携わっている。